



自然科学書協会 会報

NSPA JAPAN

THE NATURAL SCIENCE PUBLISHERS' ASSOCIATION OF JAPAN



2022 年 7 月 29 日 No.3
(通算 100 号)

目 次

1. 第 72 期 定時総会報告 (総務委員会)	2
2. 第 71 期 事業報告・第 72 期 事業計画	4
1) 販売・出展委員会	4
2) 著作・出版権委員会	5
3) 研修委員会	6
4) 広報委員会	7
5) 総務委員会	8
3. 「自然科学書フェア 2022」視察報告 (販売・出展委員会)	9
4. ホームページリニューアルのお知らせ	11
5. 事務局だより	12
6. 編集後記	13

発行人：飯塚 尚彦 / 編集：広報委員会
一般社団法人 自然科学書協会

<https://www.nspa.or.jp/>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 神保町 101 ビル 3 階

TEL : 03-5577-6301



◆ 1. 第 72 期 定時総会報告 ◆

2022 年 7 月 21 日（木）16:30 より、オンライン形式（Zoom を使用した Web 会議）にて一般社団法人自然科学書協会の第 72 期定時総会が開催されました。

COVID-19 感染拡大の影響を受け、定時総会は一昨年、昨年と 2 年続けて会員社各位に議決権行使や委任状出席を求めつつ、出席者数を絞っての実地開催としてきましたが、今年度はさらに感染対策を進め、初めてオンライン形式での Web 開催となりました。

司会・進行の森田総務副委員長より総会成立の報告があった後、定款第 28 条に基づき飯塚理事長が議長の任にあたりました。

定款第 32 条に則り議事録署名人として金原理事、吉野理事の 2 名が選任され、下記の議案審議に進みました。

第 1 号議案「第 71 期事業報告書承認の件」については、村上副理事長より、第 2 号議案「第 71 期事業年度決算書承認の件」については白石総務委員長より説明がありました。その後、牧瀬監事より、事業報告および決算書類等の監査結果として、いずれも特段の指摘事項等なく適正であるとの報告がありました。

その後、第 1 号議案・第 2 号議案について議長が決議を諮ったところ出席者全員異議なくこれを可決承認しました。

引き続き、議長より「第 72 期事業計画及び収支予算の件」について報告があり、司会の閉会宣言により第 72 期定時総会は終了しました。

残念ながら、通常年に行われていた定時総会後の会員報告会および会員懇親会は 3 年続けて中止となりましたが、初の試みとなったオンライン形式での開催は各位のご協力もあってスムーズな議事進行とすることができました。

（総務委員会委員長 白石 泰夫：医歯薬出版）



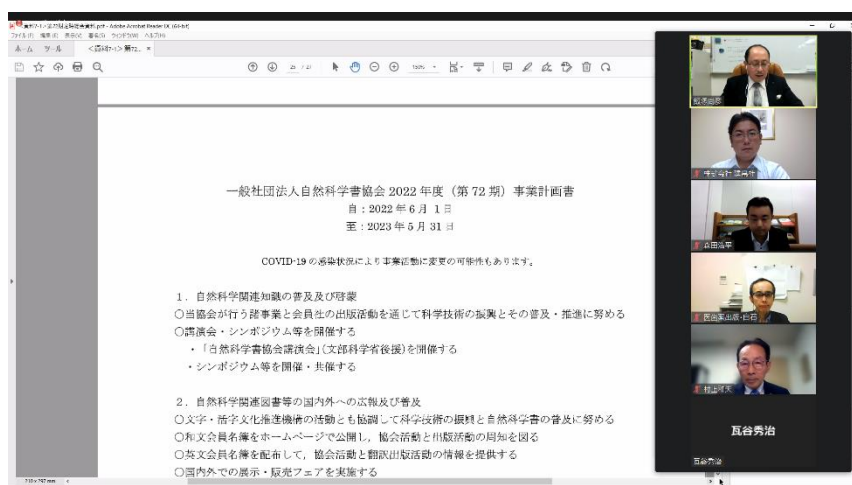
定時総会 Web 開催の様子



議長を務める飯塚尚彦理事長



司会・進行を務める森田浩平理事



資料を画面共有しての議事進行

◆ 2. 第 71 期 事業報告・第 72 期 事業計画 ◆

1) 販売・出展委員会

販売・出展委員会は、東京国際ブックフェア (TIBF) の中止等を受け委員会の見直しを実施し、第 70 期より「フェア小委員会」「国際委員会」の二つの小委員会で構成されています。前者については、当協会会員社の出版物を読者の方々に知ってもらうために継続して開催してきたフェアに携わる委員会、後者については海外のブックフェアへの参加を主とした委員会活動です。

ここ数年は COVID-19 の影響で活動が大きく制限される状況が続いており、第 71 期につきましても、当協会が今まで参加してきた北京国際図書博覧会 (BIBF, 8 月)、フランクフルトブックフェア (FIBF, 10 月) はいずれも実会場での開催は中止となりました。コロナ禍を機に、従来対面が主であった版權にかかわる商談などもリモートでの対応に切り替わるなど、ブックフェアの在り方についても変容していくことが予想されます。今後も動向に注視しながら対応を模索していく所存ではございますが、当協会としての参加・出展自体を見直すべき時期がきているのかもしれないかもしれません。

そのような中、「自然科学書フェア」については、従来 1 年に 1 回の開催を実施してまいりましたが、コロナ禍で来店客数が減少傾向にある書店様を応援しつつ読者にもより多くの自然科学書に触れる機会を設けたいという意図で、春にはジュンク堂書店那覇店 (2021 年 5 月 22 日～7 月 2 日)、秋には丸善津田沼店 (同年 9 月 17 日～11 月 7 日) と、2 回のフェアを開催することができ、大変好評を博しました。また、第 71 期から第 72 期に跨った形で、紀伊國屋書店札幌本店にてフェアを開催いたしました。2022 年 4 月 20 日～6 月 19 日の約 2 か月間という長期間にわたりフェアを実施していただき、近隣の学校への告知や書店様のホームページでフェア展示商品の紹介をするなど様々な施策を講じ、大きな成果をあげることができました。事業報告が中心となりましたが、第 72 期以降も「フェア小委員会」については、適切な時期にフェアの開催を実現すべく吉野委員長・委員の皆様と力を合わせ委員会活動に尽力してまいります。

また、「国際委員会」については、現時点 (6 月末) で BIBF については日本からの渡航制限解除の見通しが立たず日本館自体の出展が中止となるなど依然として先行き不透明な状況が続いておりますが、今後とも委員会活動へご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に、第 71 期もフェア小委員会の委員の方々には金原出版の石川幹事を中心に、書店様との打ち合わせにはじまり、フェア告知広告の実施、搬入作業、フェア開催中の視察など社業がご多用ななか、多大なるご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(副委員長 鈴木 幹太：南山堂)

2) 著作・出版権委員会

著作・出版権委員会は第 70 期に引き続き委員長に梅澤俊彦理事（日本医事新報社）、副委員長に筑紫和男理事（建帛社）が選任されました。加えて会員各社を代表してご協力いただいている 21 名の委員により構成されています。コロナ禍以降、委員会の開催がままならない状況でしたが、第 71 期は 2022 年 1 月 13 日に委員会を開催しました。

当委員会の喫緊の役割は、(一社) 出版社著作権管理機構 (JCOPY)、(一社) 授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS) 等関連団体への対応、出版契約関係、その他知的財産権全般に関する情報提供を会員各社へ周知することです。

① 図書館等公衆送信補償金制度への対応

第 71 期には、JCOPY、SARTRAS に加えて、改正著作権法第 104 条に基づく図書館等公衆送信補償金を管理するための指定団体設立準備委員会への対応をしています。当該制度は 2023 年 4 月より施行されることが決まっており、図書館資料の複製にあたって、今までは紙媒体のコピーにより提供していましたが、それに加えてスキャンデータを電子的に提供することを可能とする制度です。紙媒体のコピーサービスは掛かる費用が利用手数料（コピー実費）のみでしたが、データ利用では容易に拡散・不正利用が懸念されることから、著作権者の利益を保護することを目的として補償金が設定されました。昨年（2021 年 10 月）より、出版・新聞・写真・美術・写真の各分野 13 団体から構成される指定管理団体設立準備委員会が、運用規定を検討するガイドライン・ワーキンググループ (WG)、補償金に関する運用等を検討する補償金 WG、指定団体を設置するためのスキームを検討する団体設立 WG に分かれて検討を重ねており、今年 10 月には指定管理団体が設立される見通しです。今年 5 月には補償金指定管理団体を運営する構成機関を募り始めており、当協会は協力するよう対応しています。

本制度では、図書館側も、補償金を取り扱うことによる業務の煩雑化、データ流出のリスクを負うことなどの観点から、「特定図書館」として文部科学省に認可された図書館のみ行うことが許可されています。2023 年の制度開始時に特定図書館として登録を予定している図書館は今のところ 1 館もないため、実際の運用は見送られる可能性もあります。

② 授業目的公衆送信補償金制度の現況

授業目的公衆送信補償金制度につきましては、昨年度（2021 年度）より有償サービスが開始され 1 年が経過しました。教育機関からの補償金額は 49 億円に達しており、補償金の著作権者への分配に向け権利者特定作業が開始されています。出版物に関しては JCOPY が SARTRAS から委託を受ける形で、第一段として 2021 年 4～6 月分の利用者データについて各出版社へ権利者特定作業の依頼がなされ、去る 6 月 29 日には JCOPY の主催により出版社向けに補償金の概況、作業内容の説明会が開催されました。今後は原則として四半期ごとに同様の作業を実施していく見通しです。この作業を経て、権利者への補償金分配は 2023 年に予定されています。

第 72 期も、JCOPY、SARTRAS、図書館等公衆送信補償金制度など関連団体の活動へ対応していくとともに、専門書出版社の立場から当協会の意見を発信していきます。また、SARTRAS、図書館等公衆送信ともに補償金関連では急な対応を迫られることが多く、広報委員会とも連携して協会会報やホームページなどを通して会員皆様に情報を発信していきたいと考えています。

（副委員長 筑紫 和男：建帛社）

3) 研修委員会

研修委員会の主な活動内容は、有識者を招きまして有益な知識や動向をお伝えいただく「研修会」と、科学技術の面白さや魅力を多くの人たちに伝える「一般向け講演会：サイエンスカフェ」の開催ですが、2020 年から全世界あるいは国内に猛烈な感染を引き起こした COVID-19 はいまだに収束の気配もなく、実地での開催を目指したものの結果的にはオンライン開催とせざるをえなかったことが残念でなりません。当委員会としましては、with コロナという状況においてどのような活動がどこまで可能なのかについて今後とも模索していきたいと考えております。

さて、第 71 期では 4 回の研修会を実施いたしました。この 4 回すべてがオンライン開催となりましたが多くの参加者がございました。

第 1 回目は 2021 年 10 月 11 日の日本出版インフラセンターとの共催による「『JPRO』および『ためし読みサービス』等利用促進について」(講師：浜崎肇氏、日本出版インフラセンター出版情報登録センター長、参加者 40 余名)、第 2 回目は 2022 年 1 月 14 日の「出版業界 2021 年の振り返りと今後の展望」(講師：星野渉氏、文化通信社専務取締役、参加者 37 名)、第 3 回目は 2022 年 2 月 25 日の「2022 年度税制改正大綱、インボイス制度、事業承継について」(講師：牧瀬充典氏、文化産業信用組合理事長・当協会監事、参加者 44 名)、第 4 回目は 2022 年 3 月 7 日の日本電子出版協会主催、当協会共催による「ニューノーマル時代における、正しい引用・要約の作法」(講師：池村聡氏、三浦法律事務所弁護士、参加者 540 名超)となり、我々としまして大いに勉強になるものでした。

また、第 72 期としましては、サイエンスカフェ(一般講演会)においては、皆様の関心も高く興味あるテーマとして、気象問題、食の進化史、大学の自然科学系教育、小惑星探査など多くのテーマが寄せられており、既に講師の方々への打診も始めております。同時に、開催時期(たとえば春休みなど)や開催方法(実地かオンラインか)などいくつかの課題も鋭意検討中です。

第 72 期の成功に向けては会員社・関係者の方々のご支援ご協力をこれまで以上に賜ればと願っております。今後とも当研修委員会をよろしく申し上げます。

(副委員長 朝倉 誠造：朝倉書店)

4) 広報委員会

第 71 期は役員改選の年にあたり、広報委員会は前委員長の曾根良介理事（化学同人）から牛来真也理事（コロナ社）にバトンタッチした新体制の下スタートしました。副委員長は新任の筑紫和男理事（建帛社）、委員は会員社を代表して、浜田亮委員（オーム社）、山田貴史委員（化学同人）、門間順子委員（共立出版）、加藤義之委員（建帛社）、高田由紀子委員（恒星社厚生閣）、新井明良委員（コロナ社）、逸見健介委員（南江堂）、飯岡千恵子委員（丸善出版）〈会員社名五十音順〉の 8 名に尽力いただいています。

第 71 期には委員会を計 4 回（第 1 回 2021 年 10 月 13 日、第 2 回 2022 年 1 月 12 日、第 3 回 2022 年 4 月 12 日、第 4 回 2022 年 7 月 12 日）、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催しました。

広報委員会の活動内容は主に①「会報」発行事業、②協会ホームページの管理・運営、③協会活動の外部告知、の 3 つです。

① 「会報」発行事業

会報事業は、筑紫和男副委員長を中心に 2021 年 No.4（11 月 10 日発行）、2022 年 No.1（2022 年 1 月 12 日発行）、同 No.2（2022 年 4 月 11 日発行）および本稿を掲載している No.3（2022 年 7 月 29 日発行）の計 4 回発行しました。会報は第 69 期より電子配信の形式を取り、テキスト形式で配信をしてきましたが、2021 年 No.4 よりレイアウトを見やすく編纂し、冒頭に目次を掲載することで、読みやすさを追求しました。

② 協会ホームページの管理・運営

これまでのホームページは 15 年ほど前に作成されたものですが、現在の主流とは異なる要素がありましたので、第 71 期には全面的なリニューアル版を作成することにしました。今回のリニューアルの目的はスマホでの閲覧に対応できる画面表示、見やすさ、使いやすさならびに管理のしやすさに徹しました。2022 年 7 月にリニューアル版が完成していますので、ご高覧いただき、何かお気づきの点やご要望等がございましたら、事務局までご連絡ください。

③ 外部への協会活動告知の推進

自然科学書フェアの開催告知を「新文化」「文化通信」にそれぞれ掲載しました。また初の試みとして、「新文化」（2022 年 3 月 17 日付）にて、飯塚尚彦理事長と鈴木幹太理事（販売・出展委員副委員長）のインタビュー記事を一面に掲載していただき、当協会の存在意義と活動内容について広く周知しました。

第 72 期も引き続き先述の 3 つの柱を中心に活動していく方針です。会報は現在 2022 年 No.4（10 月発行予定）の企画を進行しています。ホームページにつきましては、リニューアル版を公開しましたが、実際に衆目に晒されると改善点が見えてくると思いますので、任期中は鋭意改善作業を行ってまいります。また出版業界に対して当協会の存在意義や活動内容を業界紙等で告知を図り、より一層認知度を高めていきたいと考えています。

会員各社の皆様におかれましては、引き続き広報事業にご協力とご理解をよろしくお願い申し上げます。

（副委員長 筑紫 和男：建帛社）

5) 総務委員会

総務委員会は、庶務・総務・財務を担当し、円滑な協会運営に寄与すべく、事務局と協力しながら活動しています。COVID-19 の影響下で社会活動の制約が続くなか、会員各社の皆様の健康・安全の最優先を前提として、諸事に柔軟な対応をしていくことをミッションとしております。

以下、主な項目ごとに第 71 期の事業報告と第 72 期の事業計画について記します。

① 定例理事会・会員報告会・会員懇親会の運営について

第 71 期の定例理事会につきましては、2021 年 7 月度を除き、全てリモート形式 (Zoom 使用の Web 会議) による開催となりましたが、協会の運営上支障となるような事象は発生しておりません。第 72 期も、参加形式を検討しながら、スムーズな進行ができるよう努めて参ります。

第 71 期の会員報告会につきましては、いずれも対面での開催は見送り、各委員会からの書面報告に振り替えました。第 72 期も、2022 年 7 月度の会員報告会は、やはり対面での開催を見送り、本稿での報告に振り替えております。

第 71 期の会員懇親会につきましては全て中止、第 72 期も、2022 年 7 月度の会員懇親会は中止となりました。

今後につきましては、社会情勢を踏まえ検討の上、理事会に諮っていくこととなります。

② Web 版和文会員名簿について

Web 版和文会員名簿をより見やすいページにすべく、理事会等における検討を踏まえ、項目の整理・変更を行った上で会員各社に修正依頼を行いました。皆様のご協力もあり、2022 年 1 月 26 日に協会ホームページへのアップロードを完了いたしました。第 72 期も、協会活動と各社出版活動の周知を図るため、引き続き適切な管理に努めて参ります。

③ 英文会員名簿について

英文会員名簿・改訂版の作成に取り組みました。こちらも皆様のご協力のもと、2022 年 5 月 20 日に納品され、同月末には各社に送付することができました。第 72 期は、本名簿の関係各位への配布により、協会活動と各社翻訳出版活動の情報提供に努めて参ります。

④ 「80 周年記念事業」について

「80 周年記念事業資金取扱要領」を作成し、2022 年 3 月度定例理事会において本要領が承認され、正式に運用されることとなりました。これに伴い、当座預金より 11,000 千円を定期預金 (文化産業信用組合にて作成) に振り替え、「80 周年記念事業引当預金」の名称を付した特定資産として、他の資金と明確に区分して管理することとしました。第 72 期も、本事業につきまして、継続的に検討を進めて参ります。

⑤ 電子帳簿保存法事務規程について

電子帳簿保存法改正に対応すべく、宗和税理士法人の指導を受けながら、事務局にて電子帳簿保存法事務規程を作成し、2022 年 1 月度定例理事会において承認されました。第 72 期も、本規定に則り、適切な管理に務めて参ります。

当委員会としては、このほか、「文部科学大臣表彰科学技術賞」の候補推薦窓口や他団体との共益事業などの窓口としての機能も担っております。

今後とも、ご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(副委員長 森田 浩平：緑書房)

◆ 3. 「自然科学書フェア 2022」視察報告 ◆

今年の自然科学書フェアは、9 年ぶりに紀伊國屋書店札幌本店にて、2022 年 4 月 20 日～6 月 19 日の 2 か月の長期にわたる開催となりました。

フェア終盤の 6 月 3 日、村上副理事長、吉野販売・出展委員長、鈴木販売・出展副委員長に私を加えた 4 名で視察訪問し、今回フェアを担当していただいた志村課長はじめ、佐藤営業部長、平岡店長と面会しました。COVID-19 の状況が昨年に比べやや収まりつつあったので、設営については当協会からの手伝い 8 名に、志村課長を含めた 9 名で行いました。事前の仕分けが出来ていたため、作業は順調に進みました。フェア会場は入口正面にある新刊書・話題書コーナーの右手、お客様が振り返ると、棚 20 本のスペースに、50 社 1,180 点 2,599 冊の本が並び、お店の外からも黄色のポスターがよく目立っていました。

志村課長からは下記のような経過報告がありました。

- ・当初売行きは好調で、新聞広告を掲載した週の売上が一番良かった。GW後半では店頭は落ち着いた雰囲気となり、期待していたほど来客数が伸びず、その後徐々に下がってきてはいるが、棚あたりの売上で見ると決して悪い数字ではない。
- ・昨年と比較すると、巣ごもりのインドアからアウトドアへと行動様式が変化しているのかもしれないが、人は出ていても書店へ足が向いていない（他店にも共通？）。
- ・フェア棚を常に注意してみていることは出来ないが、棚の本の状態を見ると、お客様がご覧になられた形跡が残っているので、これからに期待したい。フェア期間が 2 か月と長いので、新たにアイキャッチを考え、お客様をフェアエリアに呼び込みたい。
- ・外商関係では図書館など店頭選定でフェアのご案内、得意先様へのプッシュをしており、北海道薬科大学では理事長に学内でのフェア告知を約束していただいた。

売上はフェア開始から 20 日時点で 360 冊、33 日時点で 535 冊。最終的には 866 冊で、フェア小委員会で企画したフェアでは過去最高の数字を記録しました。

反省点として、長期間のフェアでは、中盤以降のテコ入れが必要なのを痛感しました。

今回は新たに、紀伊國屋書店様の BookWebPro で、フェア案内とフェア全点の紹介「教育と研究の未来」でフェアの記事広告、メルマガ配信をしていただきました。目に見える効果は分かりませんが、紀伊國屋書店様全体でお取り組みいただきました。何かしら今後の売上に繋がると、期待したいと思います。

(販売・出展委員会 フェア小委員会 幹事：石川省二)



左より、吉野委員長、志村課長、鈴木副委員長、村上副理事長、石川幹事

◆ 4. ホームページリニューアルのお知らせ ◆

15 年ぶりに、当協会ホームページを 2022 年 6 月 23 日に全面リニューアルしました。今回の全面リニューアルの大きなポイントは以下の通りです。

- ・会員社の皆さまにとって見やすく、情報をわかりやすくお伝えすること。
- ・ホームページの運用・管理を簡便にすること。

これからの運用を通して、会員社の皆さま、そして閲覧された方々にとって、さらに価値のあるホームページに仕上げていきたいと思えます。

また、今回のリニューアルに伴い、スマートフォンにも対応していますので、是非ご覧いただければ幸いです。

(広報委員会 新井 明良：コロナ社)

<https://www.nspa.or.jp/>



◆ 5. 事務局だより ◆



●理事会

<第 71 期>

- ・4月21日（木）／オンライン方式（Zoom）
- ・5月19日（木）／オンライン方式（Zoom）

<第 72 期>

- ・6月22日（水）／オンライン方式（Zoom）
- ・7月21日（木）／オンライン方式（Zoom）

●委員会

<第 71 期>

- ・4月12日（火）広報委員会／ハイブリッド方式（コロナ社会議室・Zoom）

<第 72 期>

- ・6月 7日（火）研修委員会／オンライン方式（Zoom）
- ・7月12日（火）広報委員会／ハイブリッド方式（コロナ社会議室・Zoom）
- ・7月28日（木）著作・出版権委員会／オンライン方式（Zoom）

●監事会

- ・7月 4日（月）／文化産業信用組合会議室

●第 72 期定時総会

- ・7月21日（木）／オンライン方式（Zoom）

●届出事項変更

<代表者・当協会に対する代表者>

株式会社 鹿島出版会

旧代表者 坪内 文生 氏 新代表者 新妻 充 氏

■5月13日（金）、ホテルニューオータニ・鶴の間において、第 61 回全出版人大会（当協会協賛）が、COVID-19 感染拡大防止の観点から懇親会を中止したうえで開催された。

◆ 6. 編集後記 ◆

会報をお読みいただきありがとうございます。

前回担当したのは 2020 年の No.3 ですが、改めて読み返すと急速に拡大したコロナ禍に翻弄されている様子が淡々と綴られていました。東京マラソン中止、東京オリンピック・パラリンピックの延期、マスク不足、各種イベントの自粛、緊急事態宣言の発令、感染者 0 名であった岩手県でもついに感染者が確認された……そのような内容でした。

今日は 2022 年の 7 月 26 日ですが、6 月は記録的な猛暑が続き、電力不足が懸念されました。コロナ禍は第 7 波が猛威を振るい、ロシアのウクライナ侵攻も 6 か月目に突入……。

次に担当する時には穏やかな毎日になっていることを願うばかりです。

(広報委員会 逸見 健介：南江堂)

● 第 71/72 期広報委員会 ●

委員長：牛来真也（コロナ社）

副委員長：筑紫和男（建帛社）

委員：浜田 亮（オーム社）

山田貴史（化学同人）

門間順子（共立出版）

加藤義之（建帛社）

高田由紀子（恒星社厚生閣）

新井明良（コロナ社）

逸見健介（南江堂）

飯岡千恵子（丸善出版）

